

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

7.225

法人名	社会福祉法人協同福祉会	代表者	大國 康夫
事業所名	あすなろホーム天理 多機能型ケアホーム	管理者	政所 高志

法人・事業所の 特徴	基本目標 お年寄りから子どもまで、みんなが安心して暮らせる地域や町であって欲しい。 それが私たちの願いです。 独居高齢者の多い地域で「あすなろ10の基本ケア」を実践し、住み慣れた地域で暮らし続けられるように支援をしています。
---------------	---

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	1人	1人	3人	1人	人	4人	人	人

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の 確認	運営推進会議へ利用者さんにも参加してもらい意見を記載できるようにします。	事業所方針に取り込み、利用者さんへの支援や関わりの際に伝えはしたが、参加して頂くまでには至っていない。	・ケアに対する職員間のコミュニケーション不足が課題。 ・PCで専用ツールを使用し利用者の記録を職員が残り情報共有しているが、入力や閲覧にあり職員が PC スキル差がある。	・短時間ミーティングを行い、支援向上を目指します。 ・ケア記録方法について、職員のスキル平準化をサポートし改善します。
B. 事業所の しつらえ・環境	入口周辺をきれいにし、ご家族・地域の方が入りやすい環境整備。来られた方にはスタッフ全員が笑顔で挨拶をします。	日々の清掃に加え、出会う地域の方等への挨拶の実施。整理整頓に取り組みました。 玄関先の整理や今後の入りやすい雰囲気作りに努めます。	・玄関周辺が殺風景であるが花を植えた場合、鉢につまづいての転倒など利用者がケガしないよう注意必要	・日々の整理整頓や挨拶の継続と来訪者の方から見て、スタッフの名前がわかりやすい物に工夫をします。 ・安全確保の上でお花を植え利用者と関係者に開放的な空間にします。
C. 事業所と地域の かかわり	職員の名前を憶えてもらえるような関わりあいをしていきます。困りごとなどがないかよく聞くようにします。	毎月「5と0」のつく日のサロンと「0」の付く日に、買い物バスを実施。関わる職員も事業毎に参加するように取り組みを行った。	・玄関のスタッフ写真が小さい。 ・関わりはしてもらっているが、名前がわからない方が多い。 ・相談はしやすく助かっている。	・サロンにも職員の顔写真など見てももらえるように工夫をします。
D. 地域に向いて 本人の暮らしを 支える取組み	地域の行事やイベントにどんな人参加していきます。イベントの情報などを教えていただくだけできるよう調整します。	運営推進会議や地域の方との会で、イベント等の情報を頂き、お出かけするように取り組んだ。	・駅前の南待合所にはイベントなどのチラシが配置されているので定期的に確認に行ってみてはどうか。	・サロンや地域の方等から頂いた情報を共有し、利用者さんと共ににお出かけできるように取り組みます。

E. 運営推進会議を 活かした取組み	より地域の方に周知してもらえ るよう活動します。また、会議の 場での意見をしっかりと反映させ ていきます。	家族さんへの案内を中心にお知 らせをしたが、参加される方は目 標に至らなかった。	・利用者、利用者家族を何組かピ ックアップし定期的にローテー ーションし参加してもらおうの が理想的 ・Zoom 等の開催があれば実際に 来所しなくても参加できる為 ハードルが下がりがり参加しやす くなるのでは	・家族さんへの参加依頼をそれぞ れのスタッフからお誘いを していきます。 ・「自己決定・主体的な支援」を目 指し、運営推進会議への当事者 参加を依頼します。
F. 事業所の 防災・災害対策	地域の方にも参加してもらい引 き続き訓練に取り組んでいきま す。	避難場所のお話し等を地域の方 に協力依頼をした。ただ実際の有 事や訓練での協力の実現まで は至っていない。	・地域の方や関係者と共に訓練を 行うと互いに対応が学べると 思う。 ・災害時の避難場所の確保、地域 住民他各所との連携が現状は 不足。より実践的で参加者を広 く募り各所を巻き込んだ訓練 を実施する必要性が指摘され た。	・地域の方や地区の防災担当の方 とお話しができ、訓練が一緒に 行えるように取り組みます。 ・施設での訓練内容を地域の方へ 具体的に共有・説明します